



その後の挺進第1聯隊は空挺作戰に投入されることなく、演習と転進を続けるのである。正確には作戰の準備に入るが、何らかの理由で中止や延期になっていくのである。

ラジオ作戰、ペナペナ作戰、硫黄島作戰、サイパン島作戰、レイテ島作戰等への投入を計画されたが、損耗率が高い等の理由で中止になることがほとんどだったようだ。

父と奥山大尉とは何かと繋がりが深かったようである。所属聯隊は違えども宮崎県の唐瀬原で降下訓練をした同僚であった。記録では挺進第1聯隊が東ニューギニアの高地にあるペナペナ飛行場を制圧する作戰が起案され、前進基地であるペリリユー島に一緒に駐留していたようである。

父の手記には挺進団長、河島慶吾大佐（練習部長時代は中佐）率いる挺進第1聯隊と挺進第2聯隊が前進基地となったペリリユー島に駐留していたとある。奥山大尉と父は、共に出撃に備えてペリリユー飛行場の十字滑走路を使って訓練を重ねていたのは確かである。残念ながらペナペナは3kmの高地にあり、地上部隊の支援が困難なことを理由に見送られてしまった（昭和18年7月～11月の4カ月ペリリユー島に駐留）。

宮崎で訓練を重ねていた。その後、父は本土決戦要員として静岡第197聯隊に転属し、空挺部隊の奥山大尉との繋がりがなくなるのである。

昭和19年秋頃、奥山大尉は挺進第1聯隊第4中隊から選抜された1336名による義烈空挺隊の隊長に任命された。義烈空挺隊は、敗色濃厚な硫黄島作戰、サイパン島作戰への準備に入りますが、いずれも実行されることはなかった。昭和19年末には、フィリピンのレイテ島には挺進第3聯隊、挺進第4聯隊で構成された高千穂部隊が落下傘降下するもほぼ全滅。昭和20年になると、米軍が沖繩本島に上陸。本土への空襲が激化し、沖繩奪還作戰に投入されたのが奥山大尉率いる義烈空挺隊であり、米軍に奪われた北・中飛行場への攻撃命令が下ったのである。

3 義烈空挺隊（陸自第1空挺団資料より抜粋）

義烈空挺隊への命令は、沖繩本島の読谷（北）及び嘉手納（中）にある、米軍に奪われた飛行場の敵航空機及び敵飛行場機能を破壊することであった。

昭和20年5月24日、熊本の健軍飛行場から出撃した挺進第1聯隊第4中隊を基幹とする1336名と彼らを輸送する第3独立飛行隊の操縦士ら32名、合

計168名が12機の爆撃機に分乗し沖繩に向かったのである。指揮を執る奥山道郎大尉（出撃時少佐に進級、死後、大佐に特進）は、26歳の若さであった。熊本の健軍飛行場で諏訪部大尉（注）率いる第3独立飛行隊と合流

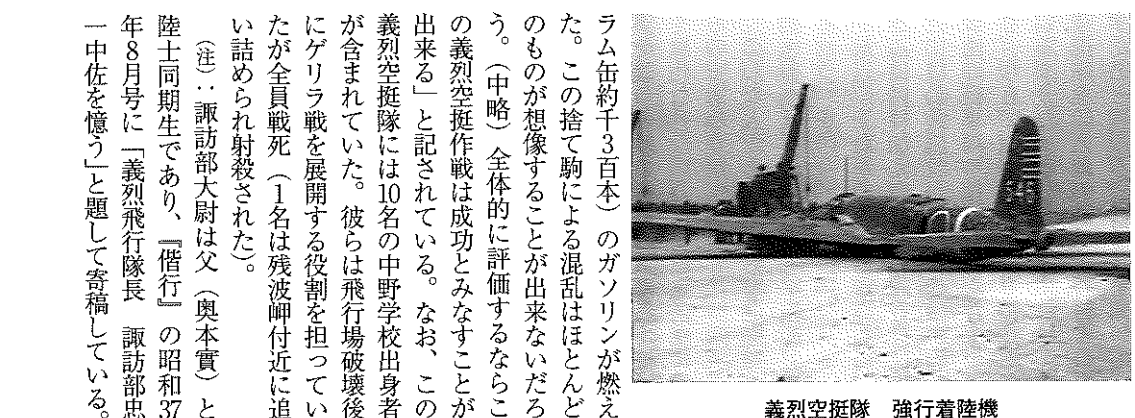
した義烈空挺隊は5月23日出撃の予定だったが、天候不良の為1日延期して翌日午後6時10分、遂に健軍飛行場から出撃したのである。

隊員は淡緑色の迷彩を施した軍衣に最新兵器と爆薬を身を包み、鬼気迫る姿であった。部隊は無線封鎖で沖繩を目指したが、内4機はエンジン故障（火災か）及び不調の為、九州南部の水田、河原、畑等に不時着（殉職1名）したとの記録にある。他の機体は対空砲火で撃ち落とされ、たった一機（54番機）のみが強行着陸に成功した。

午後10時11分、健軍飛行場通信基地にたった一文「只今突入」の暗号無線を送信したとある。

『米海兵隊航空史（巻31）』によれば、「第5番目の飛行機は、指令塔より約25フィート北東より南西の伸びた滑走路に車輪を下ろさず着陸。推定12名の日本兵も無事着陸、少数の勇敢な者が如何なる事を成し遂げるかを示した。着陸とほぼ同時に爆薬による飛行場航空機の炎上が始まった。（中略）航空機33機が損害を受け、7万ガロン（下

ラム缶約千3百本）のガソリンが燃えた。この捨て駒による混乱はほとんどのものが想像することが出来ないだろう。（中略）全体的に評価するならばこの義烈空挺隊は成功とみなすことが出来る」と記されている。なお、この義烈空挺隊には10名の中野学校出身者が含まれていた。彼らは飛行場破壊後にゲリラ戦を展開する役割を担っていたが全員戦死（1名は残波岬付近に追い詰められ射殺された）。



義烈空挺隊 強行着陸機

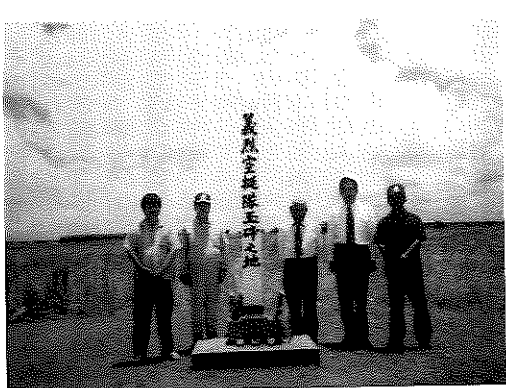
（注）・諏訪部大尉は父（奥本實）と陸士同期生であり、『偕行』の昭和37年8月号に「義烈飛行隊長 諏訪部忠一中佐を憶う」と題して寄稿している。

#### 4 義烈空挺隊玉砕之地の慰霊碑について

現在、義烈空挺隊玉砕之地の碑は沖縄県読谷村役場近くのサトウキビ畑の中に建っている。近くの忠魂碑が目印になるが、探すのに一苦労する場所にある。傍らには旧陸軍が戦闘機を格納した掩体壕が残っているが、地元住民でも知らない人が多いそうだ。

今回は隊友会名誉会長の石嶺さんに義烈空挺隊に関する説明をして頂くことが出来た。読谷村における義烈空挺隊の慰霊碑に対する住民感情等について詳しい説明を受けることが出来た。

石嶺さんは反戦感情の強い沖縄県読谷村で永年にわたり慰霊碑を維持管理してこられた中心人物である。石嶺さ



玉砕之地の慰霊碑

んたちが慰霊碑を守ってきたと言っても過言ではない。

簡単に石嶺さん達の活動や苦労話を紹介する。石嶺さんは読谷村出身の元自衛隊員。ある時、米軍の新兵研修の集団がサトウキビ畑に入って行くのを目撃。恐る恐る後を追うと朽ちた慰霊碑の前で、新兵たちに義烈空挺隊の説明をしている場面に遭遇したのである。

敵であった米兵が、日本兵の勇猛果敢や特攻戦法を教えていることに驚くと共に、北飛行場に強行着陸した場所に立てられていた慰霊碑の管理を決意されたそうだ。

それ以降、周辺の雑草を刈り込み、慰霊碑と分かるように花まで植え、心を込めて英霊供養をされてきた。だが残念なことが起きたのである。反政府感情の強い土地柄は、玉砕之地に慰霊碑を設置しておくことを許さなかったのである。

中学校の新設が決まり、慰霊碑を移転させるよう村役場から求められたのである。

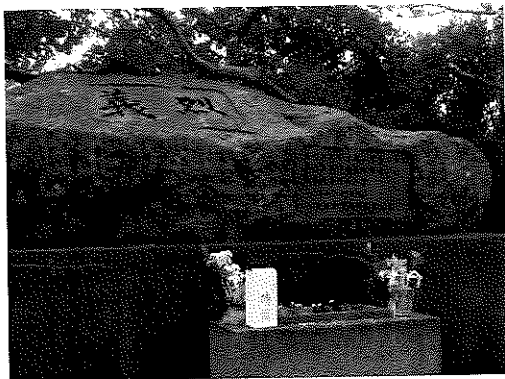
普通なら、学校の隅に歴史的建造物があっても何ら問題にはならない。まして場所はグラウンドの片隅である。余談であるが「教育勸語」等を草稿した井上毅の生誕地の碑は、熊本市立必由館高校の正門脇に立派な石碑と産湯の

井戸まで保存されている。戦場となった沖縄県読谷村の人達は、英霊に対する捉え方が全く違うのである。同じ日本人として悲しい話である。

#### 5 沖縄平和祈念公園の義烈碑

国定公園内の東部、糸満市摩文仁(まぶに)地区に平和祈念公園がある。ここには沖縄戦没者墓苑が平和の礎(いしじ)・黎明之塔、日本各県出身地別の慰霊碑等があり、その一角に義烈空挺隊の慰霊碑もある(昭和51年5月建立)。

石嶺さんによると、読谷村役場からは、旧北飛行場の着陸地点の慰霊碑を移動させられた時、慰霊碑はいつでも撤去出来る簡素なものにすることを申



摩文仁の丘の平和公園にある義烈慰霊碑

し渡されている。よって未だに木製の碑となっている。また摩文仁の丘にある義烈慰霊碑があるから読谷村の玉砕之地の碑は不要ではないか、との余計な提言までされているとのことである。

しかし慰霊碑とはそんなものではない。ましてご遺族の心中を察すると簡単に玉砕の地から撤去する事など有り得ない話である。

石嶺さんの話では、読谷村を訪れる遺族は絶えないとのことである。義烈空挺隊の隊員は独身者がほとんどであり、戦後72年も経過すれば親、兄弟等の肉親の方はほとんど鬼籍に入られたはずである。しかし今も訪れる人達が絶えないのは、英霊の親族や、また史実を知る一般の多くの人たちが、歴史を風化させない為に、慰霊供養を訪れるのであろう。

こんな人たちの気持ちを逆撫でする動きがあることに憤りさえ感じている。

最近、また新たな動きがあると石嶺さんは付け加えられた。読谷村役場付近には公共施設があり、その中の運動公園の駐車場の拡張計画が浮上しているようだ。これが実現すれば、義烈空挺隊玉砕之地の碑は読谷村から消失することになる。この話を聞いて、な

んとも居たたまれない気持ちに陥ったのは自分はじめ一緒に慰霊に訪れた仲間全員同じであった。

こんなことが、沖縄県読谷村で進められていたことを広く世間の人に知らさなくては、との衝動に駆られた。

参考までに記すが、旧読谷飛行場の滑走路は現在、村役場への進入道路になつており、その道路の近くの交差点横には公園が2カ所あった。公園内には、自虐的な戦争非難の石碑が多数建てられており、沖縄県の抱える反戦感情や国防問題に対する感情の根深さを感じた（これらは、正しい歴史認識ではない気がしている）。

## 6 恒久的な慰霊碑の建立について

大東亜戦争の史実が風化しつつある現在、正しい史実を後世に伝えなければ、と考えている。父の遺した手記を基にして書籍『空の神兵と呼ばれた男たち』を出版したことを契機に時間の許す限り、靖國の英霊の慰霊と顕彰をするようになった。また依頼があれば、『空の神兵』についての講演だけでなく、大東亜戦争の歴史的背景やエネルギー資源問題を加味した内容での講師も務めている。

目的は、あまりにも自虐的になつていく世の中に対して警鐘を促す為である。

父祖たちの正しさを伝え、日本人が自信と誇りを取り戻すことができればと、微力ではあるが声をあげている。今回の沖縄の慰霊の旅で知った義烈空挺隊玉砕之地の碑は、撤去させられることは絶対に回避させたい。

また現在の木製の簡単に撤去可能な碑ではなく、恒久的な慰霊碑建立こそが国の為に命を賭して散華された英霊に対し感謝の誠を捧げる方法ではなからうか。

余談だが、義烈空挺隊玉砕之地の碑について、こんな気持ちを抱いたのは自分たちだけではないらしい。仲間の一人の話では、ある篤志家が石製の碑を建立しようと奔走され、既に完成して、あとは現地に設置するだけになっている慰霊碑が埼玉県の倉庫に眠っていると聞いた。

何故このような状態になつているかを推察すると、読谷村が土地を提供してくれないことに原因があるように思えてならない。

沖縄県は日本で唯一戦場となつた県であり、戦争に対する嫌悪感はこちらからなくないが、国の英霊を慰霊出来ずに恒久平和が得られるはずはない。正しい歴史認識のもと義烈空挺隊玉砕之地の碑が、堂々と殉難の地に建立されることを願って止まない。